

## 「15歳の戦争」

2017年3月11日（土） 明治大学生田キャンパス第二校舎A館4階 特殊プレゼンルーム

開始時刻 13:30 終了時刻 15:00（予定）

### … 証言者プロフィール

太田 圓次（おおた えんじ）氏

1928（昭和 3）年4月5日 川崎市多摩区生田に生まれる。

1943（昭和 18）年3月 生田国民学校高等科卒業

4月 陸軍登戸研究所に見習い工員として入所。

1944（昭和 19）年1月 見習い工員の内、太田氏を含む17名が「ふ号」作戦部隊に編入。

1944（昭和 19）年2月1日 旧国鉄両国駅に集合との命令を受け、外房線にて上総一宮（千葉県）に行き  
宿舎に入る。ここで初めて「ふ号」作戦の詳細な説明を受ける。

2月2日 風船爆弾試射球第1号を驚（おどろき）海岸（千葉県長生郡）から発射。

3月31日 この作戦の任を解かれ、登戸研究所に帰る。

4月1日 登戸研究所第二科1班に配属される。

※科長 山田 桜 ・ 班長 伴 繁雄 ・ 室長 池畑

1945（昭和 20）年7月 病気療養のため、休職。

8月 自宅で敗戦を迎え、登戸研究所解散とともに退職。

岸井 三治（きしい さんじ）氏

1929（昭和 4）年10月7日 川崎市多摩区长沢に生まれる。

1944（昭和 19）年3月 生田国民学校高等科卒業。

4月 陸軍登戸研究所に見習い工員として入所。

7月 登戸研究所第三科北方班に配属される。

※科長 山本憲蔵 ・ 班長 伊藤覚太郎 ・ 補佐 若林 亨，鈴木

1945（昭和 20）年8月末頃 戦後処理を終え、登戸研究所解散とともに退職。

1948（昭和 23）年 現・向ヶ丘遊園駅近くにあった製紙会社・南武製紙に入社。

1950（昭和 25）年頃 山本憲蔵に誘われ、転職。

以降、山本と交流が続き、登戸研究所に関する色々な話を聞く。

### … インタビュアー・司会者プロフィール

インタビュアー／渡辺 賢二（わたなべ けんじ）

1943（昭和 18）年秋田県に生まれる。1980年代後半から、法政大学第二高等学校教諭として高校生や川崎市民とともに、登戸研究所の掘り起こしを行う。2016年に第44回川崎市文化章受章。現在は明治大学学部間共通総合講座講師、登戸研究所資料館展示専門部会委員を務める。主要著書に『陸軍登戸研究所と謀略戦 科学者たちの戦争』（吉川弘文館、2012年）

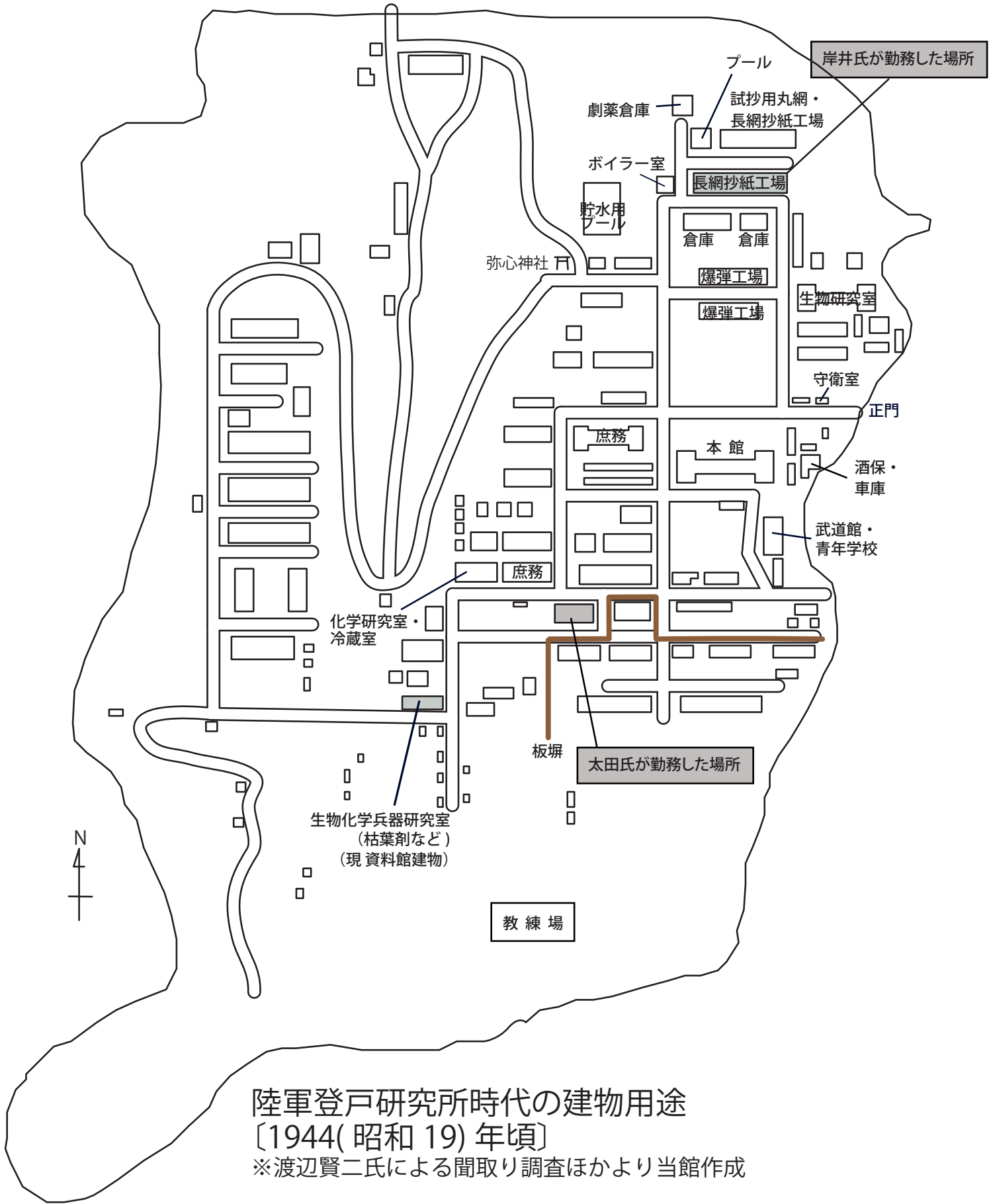
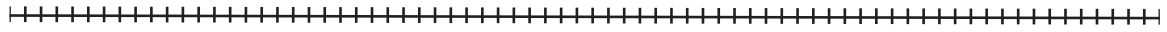
司会進行／山田 朗（やまだ あきら）

1956（昭和 31）年大阪府に生まれる。明治大学文学部教授。明治大学平和教育登戸研究所資料館長。主要著書に『陸軍登戸研究所〈秘密戦〉の世界』（明治大学出版会、2012年）

←至 東生田 (現 生田)

小田急線

至 稲田登戸 (現 向ヶ丘遊園)→



### 陸軍登戸研究所時代の建物用途 [1944(昭和19)年頃]

※渡辺賢二氏による間取り調査ほかより当館作成





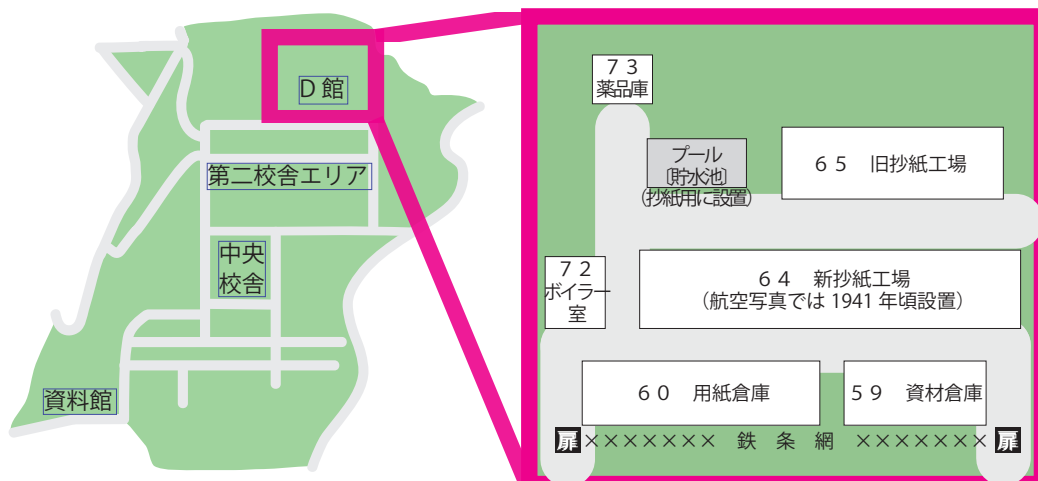
USA-M452-A-112, 1947 (昭和 22) 年米軍撮影 (国土地理院所蔵)



現在の明治大学生田キャンパス周辺図

※当館作成

## 現在の生田キャンパスと旧登戸研究所第三科北方班の位置



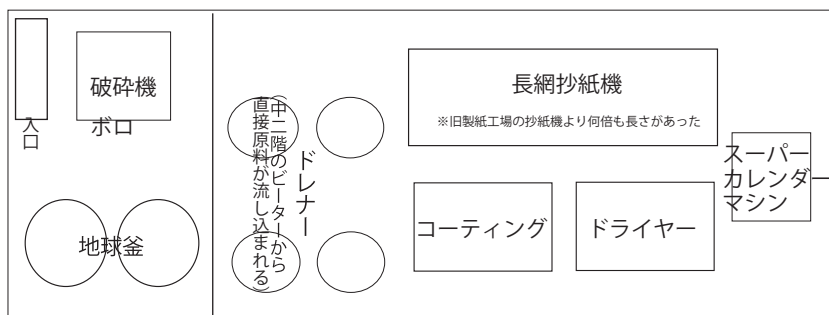
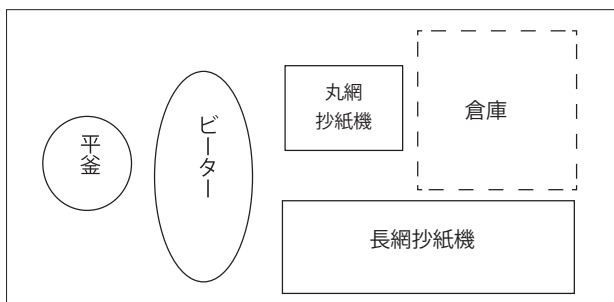
北方班拡大図

建物の付番は明治大学による

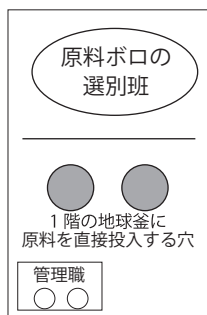
## 新旧製紙工場機械設置図

### 旧製紙工場内部 (1階)

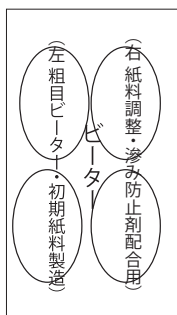
2階は漉かしのための彫金・彫刻室。



1階



2階  
(入口上)



中2階  
(1階ドレナー上に設置)

### 新抄紙工場内部

一見平屋に見える工場は一部、中2階と2階があり、それぞれが、ドレナー（ビーターの中身を受けるもの）の真上、地球釜の真上にあった。

(以上、岸井氏の証言に基づき資料館作成)